

科目名	宗教思想史 I B							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	奥山直司	
ナンバリング	G1-03-273	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

インドは東洋における思想・宗教の一大発現地である。この授業ではまず人類の未来へのインド思想の貢献について考えた後、インドの宗教思想史の諸様相について学習する。

授業の到達目標

仏教を含むインドの宗教思想について、その歴史と特徴に関する基礎的な知識を養うと共に、現代社会に求められている非暴力の思想について関心を深め、実生活に活かせるようになる。

授業計画

1. インドが発する人類の思想的課題—M. K. ガンディーの思想を手懸かりに
2. インドの歴史地理、インダス文明
3. ヴェーダ
4. ウパニシャッド
5. 自由思想家たちとブッダの出現
6. ブッダの生涯とその教え
7. 仏教の発展：大乘仏教と密教
8. 叙事詩①：『ラーマーヤナ』
9. 叙事詩②：『マハーバーラタ』
10. ヒンドゥー教の発展
11. 正統バラモン教哲学
12. ヒンドゥー教とイスラーム教
13. インドと日本
14. タゴール、アンベードカルの思想
15. ガンディー再び

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、前もって配布された資料を読んでおくこと (90分)。事後学修として、ノートを読み、必要事項を記憶すること (90分)。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

山下博司『ヒンドゥー教 インドという謎』講談社、2004年。授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

期末レポート (80%)、授業中の発言等 (20%)。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) インドの歴史地図を大まかに描くことができる。
- (B) インド宗教思想史の大まかな流れを説明できる。
- (A) インドの宗教思想の特徴を他の地域のそれとの比較において論述できる。
- (S) インド宗教思想史に関して独自の知見を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席に換算する。